

2006年度 飛鳥祭ゴミ対策提案書

表も裏もクリーンな学祭をめざして

近畿大学農学部 エコプロジェクト

はじめに

私達エコプロジェクトは、ゴミ問題やエネルギー問題などの身近な環境問題を自分たちのキャンパス内から考えていこうと活動している自主ゼミです。中心としている活動は、学祭でのゴミ対策です。

楽しい学祭の後には、毎年かなりの量のゴミが出ます。近頃では一般社会でもゴミの分別・リサイクルがますます重要視され、他大学の学祭でも次々と新しい取り組みがなされています。そのような中、私たちの飛鳥祭でも実行すべきことがあると考え、学祭ゴミ対策の第一段階として実行委員さんへの提案書作りを行いました。2003年度は実行委員さんのゴミ回収のお手伝いを、2004年度にはエコプロジェクトとして看板作成や分別指導を任せいただき、2005年度は実行委員さんとの協力で、飛鳥祭に溶け込んだ学祭ごみ対策の基盤を作ることができました。学祭でのゴミ対策が改善されるのと同時にエコプロジェクトの活動への理解が広まりつつあることを嬉しく思っています。

飛鳥祭のゴミ対策は以前に比べるとかなり良いものになってきたと思います。しかしまだまだ不十分な点もあり、改善できる点が沢山あります。前年度の失敗・成功事例を挙げ、改善を加える—この繰り返しによってより良いゴミ対策になると考え、エコプロジェクトは今年もそれらをこの提案書としてまとめ、実行委員さんへ提出することにしました。そして本年度も、飛鳥祭のゴミ対策に全力で協力していきたいと考えています。より改善された飛鳥祭のゴミ対策が、学生をはじめ地域の人々のゴミ問題に対する意識の向上に役立てばと思います。

2005年度の問題点と改善点

・ビンの回収について

毎年ビンの数が少ないことから、昨年はビンと缶と一緒に回収し、その場でビンだけをよける方法をとりました。しかしお客さんが一気に増えた時や分別指導員がいないゴミステーションではそれが難しく、最後にごみ収集場で缶とビンを分別しましたが、全てのビンを取り除くことはできませんでした。今年はビンの回収箱を設けた方がいいと思います。

・トレーの回収について

今年も引き続きミンミ・リ・リパックを導入する場合、回収方法の見直しが必要です。ミンミ・リ・リパックは洗わずリサイクルに回せることがメリットですが、利用者に仕組みが伝わっていなかったり、投げ入れなどで、ほとんどのトレーを拭かなければいけませんでした。学生には事前の宣伝が効果的だと思います。

また、毎年学校が行う“マグロの解体”で使用されたトレーが別の種類のものだったり、指定したトレー以外のものを使用している屋台があり、回収作業に手間がかかりました。指定トレーの使用の徹底と、学校への説明も必要だと思います。

・屋台への事前説明をしっかりと

ごみを出すのは屋台出店者です。エコトレーを導入するにしても、徹底した分別を目指すにしても、学祭ごみ対策には屋台出店者の協力が必要不可欠です。しかし毎年のように、屋台からまとめてごみを持ってきたりごみの置き逃げが見られます。ごみを出す側として意識を持ってもらうために、屋台出店者へのごみ対策全体についての説明会が必要だと思います。

・学生の協力を

飛鳥祭は近大農学部学生みんなで開催する学祭です。楽しい学祭を運営すると同時に、学祭で出るごみに対しても意識を持つ必要があると思います。屋台出店者をはじめその他の学生にも、分別指導スタッフとして作業してもらうなど、具体的にごみ対策に参加してもらうと効果的だと思います。

また、ごみの少ない学祭を—という学生全体の雰囲気、外部からの来客者の方にも関心をもってもらうきっかけになると思います。

・実行委員さんとの連携をしっかりと

ごみ対策の問題点は、実行委員さんとの意識の連携がしっかりとできれば改善できることがほとんどだと思います。昨年は、屋台出店者への説明会に時間が取れなかったことや、MY箸・MY皿運動の看板が当日の掲示で意味がなくなってしまったことなど、ごみ対策の土台作りの時点で意識のズレを感じました。エコプロが何を指してごみ対策を提案しているのか、実行委員さん全体に浸透してほしいと思います。また、私たちエコプロにも、学祭運営のスケジュールの把握不足という大きな反省点がありました。これらは、話し合いを重ねることで改善することができると思います。

昨年のごみ対策は、忙しい実行委員さんの視点でのアイデアが多く、その他ごみの表示やトレーの導入方法など成功したことが多くありました。『忙しい学祭準備の中でいかに手間を取られずに充実したごみ対策を行なうか』— 実行委員さんとエコプロがそれぞれの視点からアイデアを出し合い協力すれば、今後もさらによいごみ対策、そして学祭が行なえると思います。

2006年度の提案

・エコトレーの一斉導入

回収方法を工夫し、昨年に引き続きミンミ・リ・リパックの一斉導入を提案します。

ミンミ・リ・リパックは、プラスチック製のトレーに汚れ防止のフィルムが張っており、回収する際に洗浄する必要がありません。トレー本体はリサイクル工場で再びトレーに再生されます。また「リサイクルトレーです」と表示のあるフィルムをお客さん自身が剥がすことで、ゴミに対して関心を持ってもらうことが狙いです。トレーのリサイクルを行うには、トレーの個別回収が必要です。よって、トレーの一斉導入を提案します。屋台を出店するサークル・団体が各自で用意するのではなく、大学側が同じ業者から一斉に購入し、それを各屋台が買い取ります。トレーを統一することで捨てる側に分かりやすい表示ができ、回収作業も簡単になります。(トレー専用の回収箱を用意すればよい)

一斉購入にあたっては、どの屋台がどんな形状のものを何枚必要なのかという調査が事前に必要です。

・わりばしリサイクル

昨年に引き続きわりばしのリサイクルを提案します。

・分別について

その他ごみ、缶、ビン、ペットボトル、トレー、わりばし、生ごみ汁の7分別を提案します。

・ゴミステーションの設置

昨年に引き続き、分別指導スタッフ付きのゴミステーションの設置を提案します。

・ごみ対策スタッフの募集

各屋台から、全体の人数を考慮して1~2人スタッフを集める。

・屋台出店者ゴミ対策説明会

屋台出店者に対するゴミ対策についての説明会を提案します。エコトレーやその一斉購入について・ゴミの分別についてなどはもちろん、飛鳥祭におけるゴミ対策の趣旨を詳しく説明すべきです。それによって、エコトレー一斉購入における価格の問題も、理解を得られると思います。

・役割分担について

学祭でのゴミ対策にあたって、準備期間、学祭本番、片付け期間の様々な仕事の役割分担が必要です。各作業がスムーズに行われるよう、昨年エコプロジェクトが担当させて頂いた仕事はもちろん、今年度から任せて頂ける仕事があれば、エコプロジェクトも全面的に協力したいと考えています。

私たちエコプロジェクトは学祭でのゴミ対策を活動の中心としていこうと考えており、今後続いていく飛鳥祭のゴミ対策のためにも、現場での作業を経ることで色々な情報を得たいと思っています。

(準備期間の仕事)

- ・屋台出店者へのごみ対策説明会
- ・ゴミ箱の形状の提案・製作。

- ・学祭前日のゴミステーションの設置準備。
- ・ゴミ袋などの備品の購入・管理
- ・パンフレットに掲載するゴミ対策のページの作成
- ・ゴミ対策に関する看板、ポスター、などの製作
- ・ゴミ対策に関する看板、ポスター、などの設置
- ・エコトレーを導入する場合の購入・管理

(当日)

- ・ゴミ分別指導委員
- ・ゴミの回収作業
- ・リサイクルを行う割り箸・トレーの回収・管理
- ・学祭終了後のゴミステーションの解体及びゴミの撤収

(屋台閉店時からフィナーレまでの間に、屋台の片付けと各ゴミステーションの片付けを同時に行わなければならないため、どちらかがエコステーションの片づけを担当する。)

(後日)

- ・リサイクルを行う割り箸・トレーの処理・郵送作業 ☆郵送料について

昨年のごみの量

最終的に資材置き場に集まった、ゴミ袋いっぱいに入ったものを1袋として数えました。



	その他ごみ	缶	ペットボトル	ビン	割り箸	トレー
1日目	48袋	6	6		15.5kg	13124枚
2日目	110袋	10袋	17袋	1袋	27.8kg	

2004年度は174袋・昨年2005年度は158袋で、16袋減らすことができました。

缶は4袋、ペットボトルは11袋増えました。回収率が上がったのか消費が多かったのか・・・
ペットボトルについては、屋台から業務用のソースの容器などが出たこともあると思います。

トレー回収率

屋台使用総数（各屋台に配られた総数）22600枚

1割り増しで注文（注文総数）25600枚

実行委員さん手元に残った総数 4500～5000枚

エコプロが回収した総数 13124枚